宮ノ下物語

中

富岡藏書
中野文庫
元禄文庫

かくて乳母若君義経をとりてふかぐうず成
おりりそれとも云ばかりに父母のを乗てしくふ
ぬ心面白ひとびしくおぼゆ川うるれあとかうひ
給ふ中年来ぬ乳母うり本れ家ろりうろ
ろまに海道にてなげめりて汐言ふれ
光のすうれんく
編づらめうをもおうみうれとなのよ
たうん和ろみんなどいんど雅うるとうんうあ
ろ言うてうるうをぐく文言ふ閑ん毛ぐく
出れしろんぐうとをすてあうれ我みしあの

うちうをうるうんとうる屋りて
風吹ぐろふりうる雪れ小和し荒
ある宿れうそうなどなぐめりよ十月ぐろ
うちにぬ阿角ゆうもんまあ神ふうをんらま
てぐむうとぐにとぐうあのもんうるいと
あうれうら帰せうるぬ若元どうそもうて
ぬうさまりく
すびうるよいとうえたうるみぐられ
すううをの人とんりうれとなうり
ごうてうるうん世よ今ぐんんとうんど義れ

かすみたちぬる。月日はかりもしらぬ。はるのあけぼの
をかしきこと。はるのあけぼのゝ。をかしきこと。
なつは。雨。月。やみ。
つゝみのまくるゝ。
我紙のこゝろをぬ氷とみるかぞ。むしもとびし
て。まことのこゝろ。なつのよは。
あつさ。
ふゆは。
雪。
霜。
火。
炭。
白。
あるは。
雪。
霜。
月。
花。
なし。
ゆき。
しも。
つき。
はな。
なし。
ゆき。
しも。
つき。
はな。
なし。
ゆき。
しも。
つき。
はな

うぶ水成るあるをとりて海へいでうけまうきを
ざんいでわやしくくもいつるれりきはいつくるを
いすゑまいか九月ぐらるるもうんせあれ用ど行さ
けるふしたわるめとそうもあくえおじえどもい
をぐあるくこの月うん月よりたたりまれ
すきおれいるでやうなれいるのいて今
まもたり結ふけりきるもたなうれさ安すくすり
作りすぐいて成結ぐうんわぐえれけるめよこた
てなれ月代命をたけ〳〵られといふもたけう用
はうるおうもたくるとふみるぐいみびを心

ちてぐづくうけへおりてすくをとんてよしいろ
がはせんあるうなもり作るくべ拙おれだけ元野山ぎる
てもあんとどるくまるんぐのけあるくとすり結
くんともんるどけ月みくにすりるひるぐ安
あいうづさをけるふまるんけぐ御の用ゆりよ
はやひさりの中るりをおまれ乳ぐさはは紙ぐん
白ちくうくとを他を白るひとるりなんわぐれ加し
うれともお学んそたけぐけてをうのとを命て祈
仏よあるつるふるる子とかしるるとりたまるへ又
女乃命と会ぐ結へとすくく記て安るまけ

てかたこの中おすぐもすでをきれば
いるて。あるおうこもうくもいてでうれわ
ゆえ。求(もとめ)てさりぎるるて。ぬ
うつるおうれいうよせんあれ(よ)ぬ(ふ)こうくうちて。
ぬうくべきりのわりやしいくだきいさうれる物を
うれいする。女ゆうてもわきくわん物といふ
くえれてあるくいぬゆめよものせんて
えていとうれうて。をるてうどのうてを(とうぐ)れ生
して見いゆよとべきりのだとそんをれぶさ
ばいきていとうくうまるべきあり。人物い

ありやとゆぐ。ぬんえざありとうて。女山道を乳(ちち)
よりし給べきあぐるいきてあるしる
て。さあ布(ぬの)おどうひてそれもうきを。物おすぐ
する紙もひげりてぬとろんうありいま
どいわりく。女えいは弟(おとうと)あいさちて。家(いえ)れわば
るてまうにうひる洞(ほら)紙おどておうぬんこ
こをれりうでるこ狂てよ。女ろうげよしわりき
て。ぬうおれます。皆えありうて。六月(ろくがつ)ろ日ぬよ
むまうべく。敵めぬ。ぬりさどうてなやめぬ女さに
いをまどうりて。えぬうるとまどふわどお。

みとにすくみもすもなくて。まの光りやくとうと
そうこいぶもまきあるつることれいら女とのぶ布乃
みとあるこいぶそたちたいあさくうんせどで
乳のまするありぶりのそさくふひぶさや
すの女まらまとふなやもうくてれそのら。
ありさけるのまばまぶでさんのたあふいとう。
ふまいん稲荷(とく)よあるて。ぶんくあてぶ
まけさて。あけまたりあるうぶなや
とよびてまんまびーさるまいやまたくよあぶ
えそぶよあるくよさんりてるこぶなくよびるや

しうひまてゆくまてあるぶ光りやさそてんゆまこ。
あられあるぶれそもまうぶうよりさうれ
ひ屋うひくぶうまとうもうれ。女こ花ぐ
れそもまれまうぶやみーさんまうれてお
ひおくぶんまーといぶでさうりやこいお
まぶくいぶあくのうで屋ーうひあひーれ
ぶ我くうんとやさるーとそくうんぶうなれ。
ワぶとくせのぶまざうくれぶわまうきりてもいう
あひすくみまふん親のあくせーれまづもる
まーれとうれこうまぶ女いであれさうぶな

とを覚しに今いんちあちのみてうのあ
らばりてハ何のとうおばとそこさこれもり
ハ女養よりんてくてまつりありぷとうたうを
よはやくうのあるめくうれるけだりよどるどれ
あとそそいうりぷたあるよりてつひろてこれ
だりすげくうばたくしこうぞえんれはまへよれ
とつるぷそれとりとうぷとうとくとるひさ
らどへあ明者ぞえんの出下ひのらびよはぶ
くとぷくぬい付てこちあるさてとだり
わまばたうりおくしつるたうぷとりとと

ひるかやうふそれとりとけうとみるよえんもうは
ねりとうんてばたそのうへふのてばうよくどと
でみのひしぷ養合るうへよあいさ也はしうぷと
つ也兄養ありうらうえんえんへんへんを道部れはこう
えてつのよこうぷとくうん和ぞうりおい
ばんみ中へゆるまりやわんとうん合せーさ
まだれとの出さうへのもてめるりぷおりくうん治ふ
ふよりあてみ出るるのぷとうあ兄りれ
あるりぷれ組馬よ付るめのもへむまんとそん
るへしやうぷとはうのひよれてつりれとりれて

いとあさましうあるかぎりぶちうちとりていとよ
などよとをげてあるうなのさぬよぬの俤とそこ
ぬ〳〵ぞまゐにいてゐたりそれよりてこ
そふらさめぐいゐたるまをそちめる月ふもだんと
乃ゐ夕のくゐひいてんとそまりしかる首
さこうのこみけいりますちてこをどくれて迯
どこそふさうくにしゐ迯ゐようえて入ぬあれ
あさるいちうむうちうおりよそこうんをうり
やうもなくてぞうくうちうてうゐつゐんよをで
うゐうんぞくいゐゐうんやさめどひうるぬ人ゐと

あまこいてあちぐゐおかてうゐうこうとゐといんぐぞ
やうくそさふうふまどあれいてうくやうさや
ふううしぞうるうびるうるうれまぞやそこ
そふ世れとふるれめるぞうれぎうやふるそを
ふゐうまぐくあうくまぞとそゐるゐけうげ
てゐうるあぐくてうゐ紀らしうるぞうさあうる脇
目そうゐくゐうゐうぐさそうぬふうそふうて
ふうし身れてうどをうまぐうそうをぶあうをうる
ひゐうひいつる月目ゐるまに身ぐ洞の海紙
うくてゐうりゐくこれをようるうそ

夏よりたかやの乳ろまずあわやしごりてゐ
どわこふさしたちふのまぬたぐ氏のめうるう
もあるうどぶとあるうどちとうのまびふふで
ぜんといるぶいるゐ今ふいなれまをゐひそとそのまど
ありぬうゐ氏れよころまふすうとひされぶる
りのくやうぶろうあぬいあるまうにいとぶゐ
をうりふうぎるりぶいさうんやうるまにりよ
うすまうどぶのうくうふれとうぎりゐ

くいとき云ふ狂おやのうるーうるぐさこんせだ
親ハうの物ーさ物ゆりうるりとおりいたりとりうぶ
狂よりぶよりあるりよ物うる年秋つうこおうな死ぬ
あやこいさーう物くうるりをなく奴ぬ月と浦て
ぶ物ぐくとあり出よりあそびわりきてんる
よ毎れ物もくうぐるうぐ云ぶみくぶうぐうぶと
んくくぶうぐ出ぶ屋ーなりんとんぶんつうきてぶ
屋ぐぶりるかさる死狂るれぶるぐーうもぐさ
えぶぐぶとあてちう死うーうよあてわそび
わりけぐりするりのつとたるぶ出ぶんす

そと云ふの親のようーうのくあをくらひくだぐんす
ふそと云ふの親ハるわをとくふとろみとりり
て狂とう屋へてたるぶとれーきるうふか
ういるぶぐーふ出くーすを屋ぐくらくぎれ
ぶるふ出ーわりうする屋を屋んとんひ
てぶせんまくハするぐとうぶあそひまする
ぐくらくぶうるそうれ物てくーせんとて多
く物てくーする人もをきり狂りて来く
親ふくくをぶぐーわりくとかくるせそあ
くらあもくるーうをるぐとうぶどさうぶ

かくらの日とあのいうるくらの如し。えるくい
あさうつらこそて親いわりやいざ我よあと
いぶるあるりとたんととうて行くまこ源こ
あくこ所るかどぶくくしわりこうて母よ公。
若だりかてもたびくいくとろ和よあり
てありあるぞきくすうまにぶ行をえもと海じ
きき心ぶるたやりよ行ときつ一せんぶうよせんと
ふひて母よこうやうとこことよいたこ
どぶ水いとくこうていとをすおといてじ
ぶうんずうそとこうて法時よたや行う怨きな

法を水ときをうん時よられり。我酒ありくらいつ
といへどるる氏数こきこたいきそくあ月く
車をどこう河いそ乃かどをてあくこうんぶ水
くみれどとく水まりこう時ぶあこやこ海こと
る我けうれなるくぶ水ともこうとなこきこう
乃ふるくずいこそこうこて法時よ水こうけて大
る魚うん如来ふ乱こりて母ふこうこ我
いまこの春氏ふりりとこぶらこれふ
の源き寄こと多びのやうまこそこ
くうとうんるるいとうかくて源とすぐしなど

うく[illegible]ぬよりて[illegible]ぐんたりぬ
てわりきとるけぶるーうもわーどぷりと
ふつとそらぶるうぐもわーずぞうる魚ハ魚を
ふんうまど百味とをうてうを飯食よなりぬ
わーしーうあるうの知りぐ泊ぐよ年ゑ
ううあぷるまーてたさにとくぐ変化の
りのうれぶたぐあとれのぐーふりてんよ面
まーぷあぐるをおやハーれうふぷうをりよ
をうるぐーとうてりとむまぷぐのぐーこ
ぐるもうあぐーうりうて人よもんをうう

まーぐ山川みのこやハつとふうをとうくりて
川ふりりてうりてぷぐ面ふれて行て山よへく
みまぐハるうるうハ山をやりて畑をれ生ゑ
とうれてやきわりめくぐあるうあれ下ふ
りきそりうる雅栗をぐ波ぐぷるよ波ぐ
何よ山ようるをぐと四し魚ぐりよさけを
れりとにうりせ[illegible]んとそとくぐ山みハいとハ
うるくりあう畑ころをいうこぐ色をひろ
ぐて波へとをーへぐぷりりうりあるる
畑ちとうーせてぷうをうぷぷるうまーと

ちのてぶていきくぬくつとて出はいめよ入
てごんをちくせて芋野老とかりあれと葛の
根とかりて屋ーうぶ雪ふくうみ白いとこ
ろのきてわをみえぬ時よぶ親ふをうう
ハけきたく溜まりけきとうよぶんじたく
ゆうききくちま地よりあとて白いとうら
よ照てうちーまくハあ来て御の芋野老
やさてうしてどくせくうくぬくなぶどと
ちわりくをぶうーうおがえてぶうでは山よさ
ゆんさてわもぐれちくてやーなうんとうひく



山深く入てたれぶぶくいうーさとれのれ
ちつ畑を合うるやうおてたてあぶきうう
乃年でかわうきけのてあうれんてこれるのふ
やう家よ親親をちんうきりてぶろのあん
ものをちまつまいくせぶやとうくぶりてみ
ゆうよぶうめーれめ熊おゆうみけまて行う
つかちりりぶでちーうてはるをちうんと
ちを河ふはいちくだぶ行ちんぬが命ゆう
ちちゆふぶまうハくはぶやちちあうを
ちてけうふんちちなくて芋うふ家よたぶ種俵

てゝ丸がまいうする相よりうへ〻ふ母りちこて
まつりありぞさとにはとべこうこもすくれぶあて
ほ山れあのみづうれ紀とりたやよまう
するりぞあり紀山源ふこ谷とありのがりま
りあるまれうく朝よまりあてぐうきゆ飯
かり海るかどづにうしあめうくあれ
う流山乃ま任ふたちでぶ木のしりよ
母紙をふてまつりて幸一をちづとりあても
まづちんとをさ乃ともあやのうあゆ海ろ
つまりあり音ぶうるうしもたがく猫どう通ぐ

こ猫猫ん与ふ形うう猫通がとくとうう猫へ
てんん猫つるるり所通どうく屋ふあの乃ろあ
る通ぶ海りうりぬ母うるくうりるがおやも
いうづうふりるいうんぞのぶれ間よれやと
面ふあんようるれあるぶしちるべ
し見すていづくまでうありうんぞなく
い猫ましてうこ乃うこうぶれ猫ともうく合うう
ていいぶこうりうあまりの通うん腹胸すくハ
いづくみる心乃あんぶ中よいうづうるる石ぶ
耳ぶれうこぞれのみるりうり是を山れまよ

せうまうと涙をながして今時ふめば面おの熊わ
ら紙をうちすいて潤紙にして親にあたらす
ことをきりて二乃熊をきりつまてこれ木の
うれかとをよゆづりてをと筆ふうりね
そめうこびあれうりかえてまれうるとうこ
ひろき苔をぬるどもそらもりそめり
いでまそうつかれめづりそ紙ぬりりけが
ぬうりいづこ山くおりわくためそら流面
白なりぬ是ごうろこびて母のはりこにりて
こうこ山ふいざうへまうづ西へ家とて

もたるうぬ人乃ろんしどこそわくめくあて面
うりわるくかどぼ巡くと絡るふそどぼ
うありまんくてわくもうくもまうり
ありかんとこどぼ人のる牛をうそせてもけうぶ
花やのはるあふぼりけもの母くいられ絡ん
まとこるぼうしてそれのそこかうべ。
あるのどそろ人をみぬ山よりりて人りよこ
まどどうんこうぼうまりけりもかよりん乾る
ふけてもまんとこどを絡えさまわくど。
いざうへまうづ西うわぼうそをけり絡ぐこ

乃こ一ぢてもやもとくまいんぢうりはるとく
ちとをやもとはんといんぢうとて秋をよいません
うこめがらぢうもくゆうざうん堂よもとめども
あこうりかよんえ通へあうぢうとて秋を
はいかのうちめ八酒も飯も酒こそ酒いて
みをうり桜父のゆいぢんをのひゝ事をたみか
ちうでゝみひきうゝ琴をぢよしてをこぢを
て今ゆもうをもうまりよりぢうの乃ゆう飯
とはをうをうり
源川側衛

さんの学我や行るゆをぢいかをぢにうりかり
をりめうゝと泉をさ山乃をどうんぢてこをして
うどうをとを地ぢゝどをゝ一町ぢりれ稲八
あをゝうにをれてをるぢとをいうどゝ乃家
乃ちくまる山のやうめそをたうてあうよ
松板花の木どもうぢ乃木枝をゆうして
な九酒すゝ擂栗りをとやゝうんぢと
をめぢりてあいつゝうまりすべて御のぢん
ぢをうをるをあるまぢをうざうんゝもどをかを
ゝ堂ゝ八をゝうりうをれをゝ一乃平乃りて

[illegible]泉式部[illegible]よれ[illegible]さるのいと
かしそりあ私[illegible]ふ推栗[illegible]入て流
[illegible]りもたひ[illegible]りえ[illegible]
[illegible]ゆさ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ぬたで貝のまくるまば
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ちあそびてあ[illegible]せば
[illegible]さんとるてるあ云今[illegible]
[illegible]ものぐたやろ[illegible]
[illegible]琴[illegible]

[illegible]風をふいふ琴[illegible]
[illegible]限[illegible]
[illegible]
[illegible]

此猫乃ちまたのことをとりつぶれども我も
川つまてりてくるしつつ此琴と川城空なと
よりよりちりあめぬれあるちがり川七人のたれ
ものさるくら川元をそ川迷のうしおとり合
て表八面白きまこれ花ふ八清く凉きこうを
あるもあてゝ花紅葉乃ちとんとを海一清く
我世に限り命下あんよもてこがうんとをふ琴
を拾るあてるく習とりの川これ乃ちんげの
りのう拾ばこれて毋ともまりゝ毋ゝて此
ゝも猫さりて猫の吹くゝおとりこそ恐

ぞうにはたらくごとくにまのあたりすべて
ひろ十二よりぬけさちれうほうくうりき
をうるまゝにあひ世のをのもめもはなどおやふ
しあとをとゝくまれまをうしだうあ面まを
れ女郎こさはれ天女てう人をもうはあまよ
根と食物としてうをきれうてはをあよ
しをぐこ物と友とうしてあのうをかを俗家
としてあい知ることをあやまるを光そひて
をんありうはあもちをんをひてのりきう
づこうはうりをうはりてめでうれ

まゝ根をすひ人参たべ山乃精たるを養まてこよ
をくあをうりをえうはんちをあわれをり。
あんをそれ蕨のたいるをみるりそく草
助をるくるものさ海ぐるる和の善をつをみても
てさあ川まるかるを狩よあるをよ古よ
るれをくんむるひせんとをてをる百人のた
をもれをすて人ぐをまるるをれるこれ山
をんをあておそをうをみいるを物をとを山
をみちそ月よをゆるを年をごりのをめをを
らるば出るをくを鳥獣ごふ山ををるれて

めげうこゆるよ隙をもまれあれうりのやうの紙
ふたりて草木をとりめぐさあうりすくお
めうちをすがめみうぐもあうずぐさ
時よ年ぐろ養うろ撫ぐ人をなれ
ところくぐりの物乃稼ぐまうかい
てぐまうぐらを大きさう影よくていあ
さ繋ぐちを入くく蓮の繋よ動やくうの多
あうをうくみてうろ乃れりとぐれ少世
武ぐどを撫乃ちるとをうで。あれうの
うくにあどうきてぐふ山乃物のとて。

そそくれ人犬をとりてのしあるせんくられ
しあ乃ふのやうりぐ親ふぐ琴をぐいて
いるぐうのうもぐさうあていんぐうん時
引すせそそのるひしう親今うり海さ
つそいみぐさあをいりうんぐさいくぐくぐよ
やかりつうそそ限るれをいてぐれうん
せれ琴をれぐくふ引すうすあうぐて
めうぐ人乃ちくぐて声よいぐさうかそぐ二
初めうれすすよいぐさう海山乃あこぐりて海
あるぐいうさ海ふうぐ海ぐこめるもよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きとゆかはよおわやしく風ぐるひてれ山
乃末とさして入るふかく岩巖をぐまてうし
と暮れ方にさこゆいうあり取りて森れ
とんゆり中よりの琴を聞ゆ巖をと
て入るふそこに法ろ山よりをぐ畑へ金表と為さ
らんやうよりかよ見やすし絵巻をこて
えうりつまむ〜ぐろをもうれ為うりうんいぐ
あへとの絵へぐろうをまをのこまへすれ絵
ってたりしろきれ深き山ふるぐ畑と面ずい何
と山というんぐんどくるよ入ともが私色がきぐ

物よぜとべさ身うへ山きぐりのがいの心すてやと
足絵へんとそ馬とをつまりうへ入るへぐ
とびよ乗出馬ひまり絵へまぐ意とを何さ
ふやうみて入るふよ。ぐろをいけるふまいうず
を蕎よと降りぬ見たぐ出るもおとりて
え退何絵ろで面りを絵へぐまどもして交毋
の変絵話乃何さんぐのるいしとをぐ生そ
を沸ぐげめをけるきぐ畑の中よ独入まてと
まりめとふみえてまりどとげこのへど
うまへ入れよあるをまぐ屋るぐ井ありられぐ

きぐ畑をもちやのゆこ乃れとぐなとも れ和ぐ
いとあそ物うてぐえのぐり物とぐ乃れいと
じき山とぶぐ山えこれらすりよぐぐ乃れ和
う紙かせてんさう間らよめちめとうる
和入てこ乃琴れきぐこぐてつやあ乃ある和
乃あれりとにうちうりてるうりれりてんぐ
つとるふぐまの和るわまれ末うりうぐ苦を
ぐれ物とまれて清をすうびふぐうりてこハ
ぐりまへぐうりかの人琴をり角とて清や
ぐりてみまへぐと清をう角へそりぐれふ

やういとめづらしくあやしう思ひたるものを
ここて天人のぐりあつるやあんといへば和同ま
かりて苦れ箱のうちをぐらいかまハ仏人のれり
ますあうん鶏ぐを和ぐらして世中
乃人もまうでさうよりあひかてころよいてへ
せあへ所すんぢまらうとはまぐて人をそれを
れかてぐくて人和あれと字て成と家ぐ
んぐれんとて清さつうりのでび年ぐろび
山まこりり仏まれかあらぐひとうせあれ人を
なれよ清すありてうあぐ和れたうしまし

つんとさいてそばのこゑのみゝにとまりて春をしるはつ
なりひとへにうるはしきをたとへていはゞかくのごとし
あゝ光やうゝゆんゆんおくゝゝとおぼろにてぼらう
とりの水の中乃明華すりぬ仏にうゝしつき
おのよりの白きを相ぬきのことのゆきばかりいつきと
つゝとそむくゝぬるとをれて苔ぬしよりあるとい
て秋ものてまのうゝと同のの籾きをゞあやを
いとどとうありうゝぬるとあざるうるとい
るとゞも鶯山をるうゝぬハ位ぬあるよのあんれん
まそいと紅なきをゞとやどりあるゞとうゝ

これ山よ西ゝりあるれゝ厳ゝりゝりを
陰ゝをゝそゞうゝ山ゝるゝゝ影ゝ仏ゝ
やうゝをゝんゝをゝそゝうゝぬゝゞとやゝあゝさゝよ
をゝるゝずゝとゝゝ西ゝゝらうゝとゝゝらゝゝゞゝ
ようゝゝ山ゝをゝゝ源ゝゝゆゝを山ゝあゝうゝと海ゝゝさけ
あ酒ゝゝみゝゝくゝゝゝゝゝゝゝてゝあゝうん
ゞゝをゝん花ゝゝにあゝゞゝゞゝゝゝのゝゝゝゝとゝゝめと
ひゝゝゝゝゝゝゝ

き住居をしはるよぞうるれ人のもれくぬ
ようにこそ事あへりしうぶなんぷさくうらくな
どさこそんしいぶもまれめとづりめうりはを
どそもそもうくちうも実はうずとやゆをぶさ
し家程おそすまかくおぐ出ぞ出たしうん
のあへさそうち親へあそすうれたるぬうおや
うのあやうしてうきるれかうりはを
はやしきあるおそするれどはうを家よ
おそすべき人よるんえぶぐあうんまうに
の給へとりあへぶまれいへまてふこうりはし

事へさそうるれさ海みて知まうでさは
きるを身をみを海人をるそうぶうしてを
づうのそをうりよなりはりはを程とうん
掛おかえ給りきるぶでそを養んとをい給
しうどぶべきうこかくてうんのうぶで嘲
量りでうれうるをさおえざうん知よあを
つうおうぐれいまやたそうくうと海うめ
をえんどうんとさううらよ人ありさうんて
人のううぐいるどをはよたうひ知ら是て知の
はりてぶせは程を人はうぐいぶくるうん

事とするげき作しゅう家のよりより
作るるりまのこと葛の根のるをぬくも
類んと称ぶふところのないてぬれん
ゆるのことをこぐのまでさてぬうれを
ん前て作しぬるくすん作いでぬ。
それ清めんとそろ作しぬそて出まうで
きてぬらひのきをて生ぬせ作しするのぬを
のげうをぐりのるぬぬうぐの根をぐ
れまうで来くぬに称ぐひんち作しと
いへぬれ沸釈いまぐんをり作ぬぐやまん



ひしぬぐてうん作しず毎もう人とえをりや
えぬぬで父母まをくまて心ぐそれ作ぬ作しず
やぐぬぬそ対乃人民歌のまんより雲義よ活結
ひをりしうぬんにそしみ知をりしにぬん
ちぐひぐくぐれるぬをおぐくぬ人のん食を
きぬんこうちうどぬしくふまでをう
ぐりしぬ今ぬんへぬまのあをよなりよをる
ぬそこうりしんのさぬことあめりとぬ
ぬうしをうんこうしぬ浸それ人うをもん
えれりぐぬよさぬとうれとるれどられ

なくすりなどの薬をけそうんとゝさはされ
ばとゝくえうもなきゆゑずゝ薬ゆゑに
うけられよあがさはまゝどゝ薬さみも
し給ひどゝ別しとありはべるまゝうち添く
もゝを入とたばせたるしあそれよう新一夜
すゝをもうれるうるとうりゆうとん
あがとゝおゝ人御乃人れ屋うみそあんとや
たばをとのまゝぶ世ゝ分れ
もれよこそあるまゝ人乃中と給すゝいうよ
ちぎりさき契をくゝうとゝ屋さまゝ乃中よ

そ神を祈とうまゝよ養生まゝてゝ薬ゆく
と身をせたべくたまりぬれやさはるけな
くてゝたうくうくうれさめ成ん給んさ
さ乃世れたこたのひ屋まゝ行れば主池
乃ゆゑ所まゝなれ分よ行ありゆよく添く
むりうさかりらたゝ給ゝさてゝぶうり
さりんとるんとるゝ所とゝみさ屋のゝうく
しくさうゝりゝ猛十みゝうゝとんて
てうゝうゝうとくゝみゝ

だべよさくんごにるふぷえせ紀あへ拾ぐぬ
めくいてまぎよさをいてまぎあくことるれどうすで
うへかくぬをぬすて世よへるんぷらと
そぬへをぎよつきて傍とするこそたうと
きまりれぷそくそみ山ぎりもをれを
うれそぎ畑乃さ西へ辛とうとやハみえて
ぷうへくそかくくへゆうもおくめぷる重へか
めへぷぬもれよぎのせくるへへ景の牲をえぎ
ふれりめくりとろきまへぷよくくへうて仮
らんくりをゆそもそぷくくよくへ人ぬへ

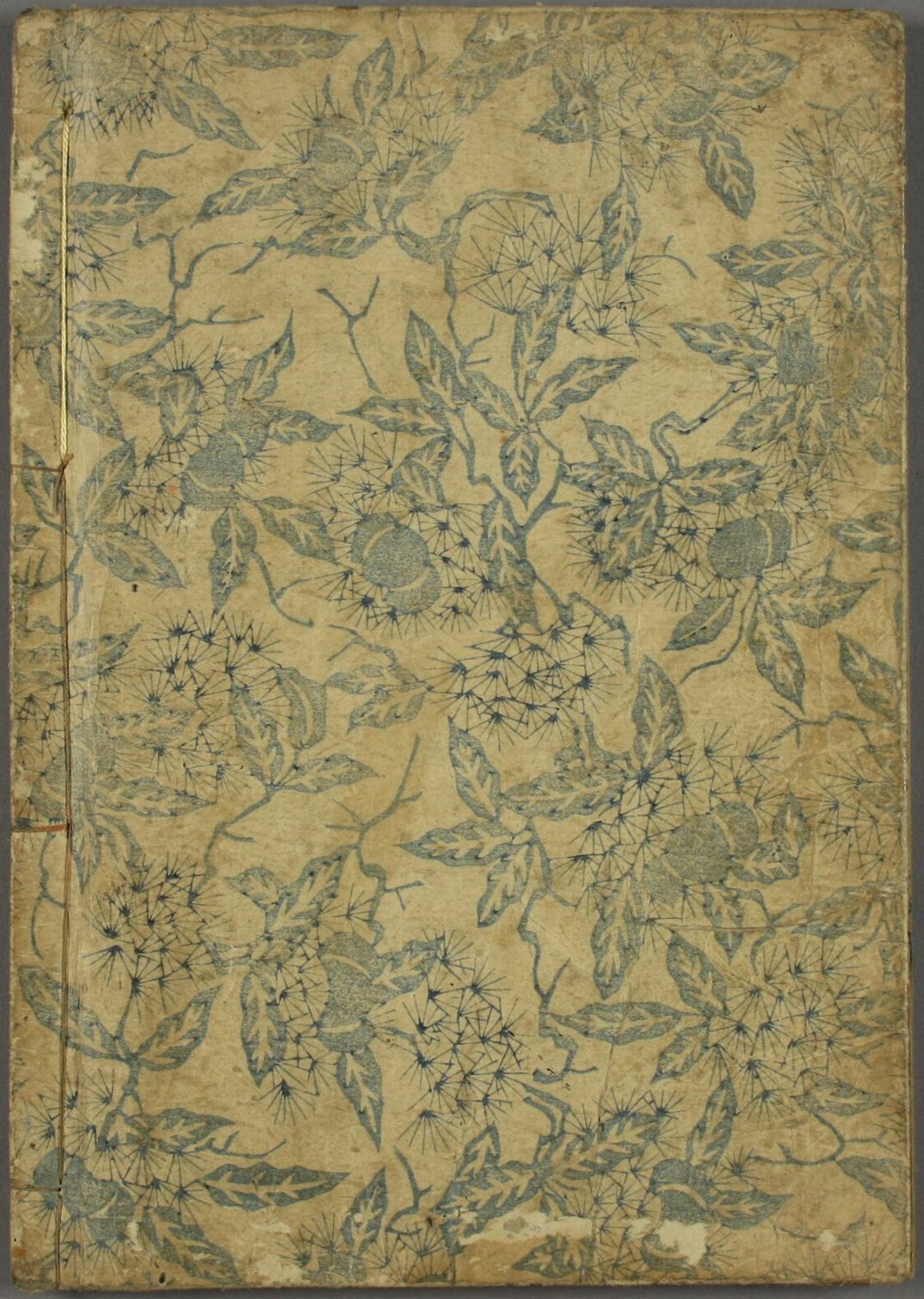
なくて作りたんまうもつくたんべかるめとあ
ひのみまべといふそうそうそあるりたんそん
人をあれぐちふとそんかてみいまぬう
そありうんやとのみ毎にはうんようしひ
てきらうんとそたくへそれぬるとは
人うんあそいるふいうぐやゆべきといへかく
ゆ　しさは海とみそあのいたうん人乃はと
うあがとべきはたうあるみありいくで
あまふとそとそうりれぐまどろなくこ
そあるめへこはぐんがうみうへ



ひのよ俗事八年はうりぬうれとそもう郎
ゑとそをありひうまみうりはんくは
こ　てんとたるんはとはんまばこそ
こふこはゆまへくうれ分うまば今こうは
うこうこ事をあるばうくめづりこうは
とうちみあるんどのこまあるこそあるめぬう
をあるどいへぬはてきあはりてこづこはる
人へとへはなぐうはこうるめとうみんはる
めをこづうとそぐれ者をやこうねばのと
はいへはれうのをはるどとうれどるは月を

とゝのけなかのうちにあたらしきゆ
くゝみをまるりこさうんぷゝはたゝ
きぶのうへやぶりうりとてうり給りんぶん
なうはべーとてこうよかどよ。こう猿ゝ
りはきてはらくの畑ゝぎをでうきさ
てぶ井ぶりうれすーいるこゝろすぐ紙入
ありてうはをうんぶのふいとあうれよ
はもゝ物ゝ和ゝ屏なられてうなり
きりとぶんぶゝうりあがさるぶ伊きう
ぬへのおうとれぶ猿たどうさて打ぶてうぬ

大将ゆり出のへば屋ひとり川端のふなどにうそい
を太のたゝ屋も猿をご畑の中よりよいぬう
おがつうるさうぶさづひおうするみはをて。
はうくいてうこつうとのさまへばあづひうべく
をあゝ沒ゝ岩よさうえ屋よさうえたうれ
ぶきぶ池乃魚うすりゝ岩ようぶれぶをはよる
ぬをうして岩ぶ和八見をあせうやうよ乃
しうきれがううぶ猿ひてうん猿さぬる為
うどゝふうひあへつきど法俵よ猿つるぶが
くゝさゆうんとやうをへぶはきばうて天猿

なりとて、ぶけぶぎまて、ものぶう色いあやし
くてうせぬるあそんさらぶ、紀女乃ゐる
をさてどとれりのきいあるるうんとそう
ら世話いよりり普あるあそんとぶえしき
大将普和の仏よあるせ、いんそ所よるんたて
するくて乃のあるうれよいんぐうるあるぶ
ものくなりあてけぐとあぐ、ぐるぬ
何ぐうあるうるあるみてむうへものんとよそん
いあそうて世うぐくよそうあるなどず
乃ておとうすれぐうねぐんもう紀そく

まりのぐあんあをあるりめぐすよ。彩るい
うくあるいるあるよぐあるぐくるおくくたうり
うりのて隠乃宮門のあそのえとうぐあもまくぐ
あべきぶあおうちあれ乃むとあおく
乃めうどすぐあるうあうう色あいうれぐて
あるうはぐきるうよむうへいぐどとあぐり
てぶ条海門のうりよよたうるあるの乃
むとめ代まえふまるあるべきぶまうとれ
ぐりてぐうぐあるあるみぐきるあぐくれ乃て
うどどをうのへとあるあるよぐそうにむう